

- ◇下記目標の実現に向けて、平成30年度に引き続き重点取組分を設定しながら、事務事業の見直し・改善に取り組む
 - ✓財政の中期展望に掲げる事務事業の見直し・改善等の目標額30億円の達成
 - ✓ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた事務事業の見直し・改善による業務量削減

I 平成30年度の取組み

【実績】
経費削減額▲5,822百万円
(うち一財▲3,485百万円)
削減事務量▲30,133時間

(1) 通常分

○部局長マネジメントの下、必要性、役割分担、時間外勤務・業務量縮減等の視点から実施し、予算編成に反映

(2) 重点取組分

◆以下の条件を全て満たす事業を対象に、部局・総務部による評価、知事協議を行うなど重点的に見直し・改善を実施

- ①政策経費(人件費,公債費,税等交付金及び社会保障関係経費を除く)
- ②予算額1,000万円以上
- ③財源について、県債と一般財源の合計が200万円以上
- ④事業開始からの経過年数要件

	区分	H29取組実績	H30取組実績	R元取組内容
重点取組分	新規分	498事業 (H29年度末で5年以上経過)	96事業 (H30年度末で3~5年経過)	45事業 (R元年度末で3年経過)
	継続分	—	164事業 (当初予算編成の中で「見直し継続が必要」と整理した事業)	81事業
	県単補助金	—	一般財源5千万円以上の中から指定する県単補助金 他県比較等による点検を実施	一般財源5千万円未満の中から指定する県単補助金 他県比較等による点検を実施

新たに対象

II 令和元年度の取組み

(1) 通常分

○平成30年度と同様

(2) 重点取組分

(3) 主要事業協議

○令和元年度当初予算要求特別枠事業(ビルド)の知事協議と、あわせて廃止する事業(スクラップ)の知事協議を一体的に実施

(4) 優良事例展開

○事務改善に係る優良事例を全ての部局に展開

(3) 主要事業協議

○平成30年度と同様

(4) 優良事例展開

○平成30年度の取組内容に加え、
全ての部局が取り組む共通取組項目を設定

新たな取組

事務事業見直し・改善スケジュール【重点取組分】

5/30
部長会議

5/30～9月中旬
重点取組分の見直し・改善

10月～11月上旬
予算要求

11月～1月
予算編成

部長会議

重点取組分【新規分】

① 一次評価:部局長[5/30～6月下旬]
◇ 部局長マネジメントの下、棚卸しを行い、見直し・改善の観点から評価

② 二次評価:総務部[7月上旬～8月下旬]
◇ 各部局からの一次評価の提出を受けて、総務部の視点で、更なる見直しの可能性を評価

③ 知事協議:総務部→知事[9月上旬]
◇ 一次評価・二次評価を記入した一覧リストを総務部から知事に報告し、協議

重点取組分【継続分】

① 部局によるフォローアップ[5/30～6月下旬]
◇ 部局長マネジメントの下、平成30年度の総務部評価・見直し要請に対する回答を作成

② 総務部によるフォローアップ[7月上旬～8月下旬]
◇ 各部局からの見直し結果の提出を受けて、総務部の視点で、更なる見直しの可能性を検討・協議

③ 知事協議:総務部→知事[9月上旬]
◇ フォローアップ結果を取りまとめ、総務部から知事に報告し、協議

知事協議結果を部局に通知

知事協議結果を踏まえ、予算要求

主要事業協議

知事協議・主要事業協議結果を踏まえ、予算編成

※県単補助金に係る検証は上記スケジュールに準じて実施

事務事業見直し・改善スケジュール【優良事例展開】

5/30
部長会議

5/30~9月
優良事例展開

9月~1月
通常分の見直し・改善

部長会議

優良事例展開

① 事務改善に係る優良事例の取組依頼:総務部→各部局[5/30]

類型	共通取組項目	部局設定項目
会議方法の見直し	<p>総務部より 項目提示 【取組必須】</p>	<p>H30他部局取組実績等を参考に取組内容を決定</p>
内部打合せの見直し		
業務マニュアル化		
業務の平準化		
メールルール再徹底		
ICTの活用		

<共通取組項目>

- ・ 類型:会議方法の見直し → 会議資料の事前配付
- ・ 類型:内部打合せの見直し → 終了時刻の事前設定
- ・ 類型:メールルール再徹底 → メール件名設定ルールの再徹底

② 各部局による優良事例に係る取組内容決定[5/30~7月下旬]

- ◇ 優良事例に係る取組内容を決定
- ◇ 取組内容を総務部に報告

③ 取組内容を集計[8月上旬]

- ◇ 各部局の取組内容を集計

④ 知事協議:総務部→知事[9月上旬]

- ◇ 各部局による取組結果を総務部から知事に報告し、協議

知事協議結果を部局に伝達

各部局の取組結果をイントラ掲載

通常分での更なる業務量縮減の取組へ活用